令和７年度 第２回 静岡県立伊豆の国特別支援学校 学校運営協議会 議事録

１．開会・校長挨拶

- **夏季の教育課題**：酷暑の中、熱中症に配慮しつつ教育活動を実施中。状況に応じた変更もあり、特に自閉症スペクトラムの子どもたちへの丁寧な支援が重要である。
- **社会情勢と子どもの現状**：「ウェルビーイング」や「多様性」が謳われる一方で、子どもの自殺や不登校が増加するなど、社会と子どもの現実には乖離がある。
- **学校の役割拡大**：学校は教育だけでなく、保健・医療・福祉との連携が不可欠。しかし、行政の縦割りや既存の仕組みが変化に対応しきれていない現状がある。
- **若者の表現力育成**：「やばい」という言葉に代表される若者の語彙力低下と自己表現の困難さが課題である。子どもたちが自分なりの言葉で豊かに表現する力を育むことが、今後の学校教育の重要な目標である。

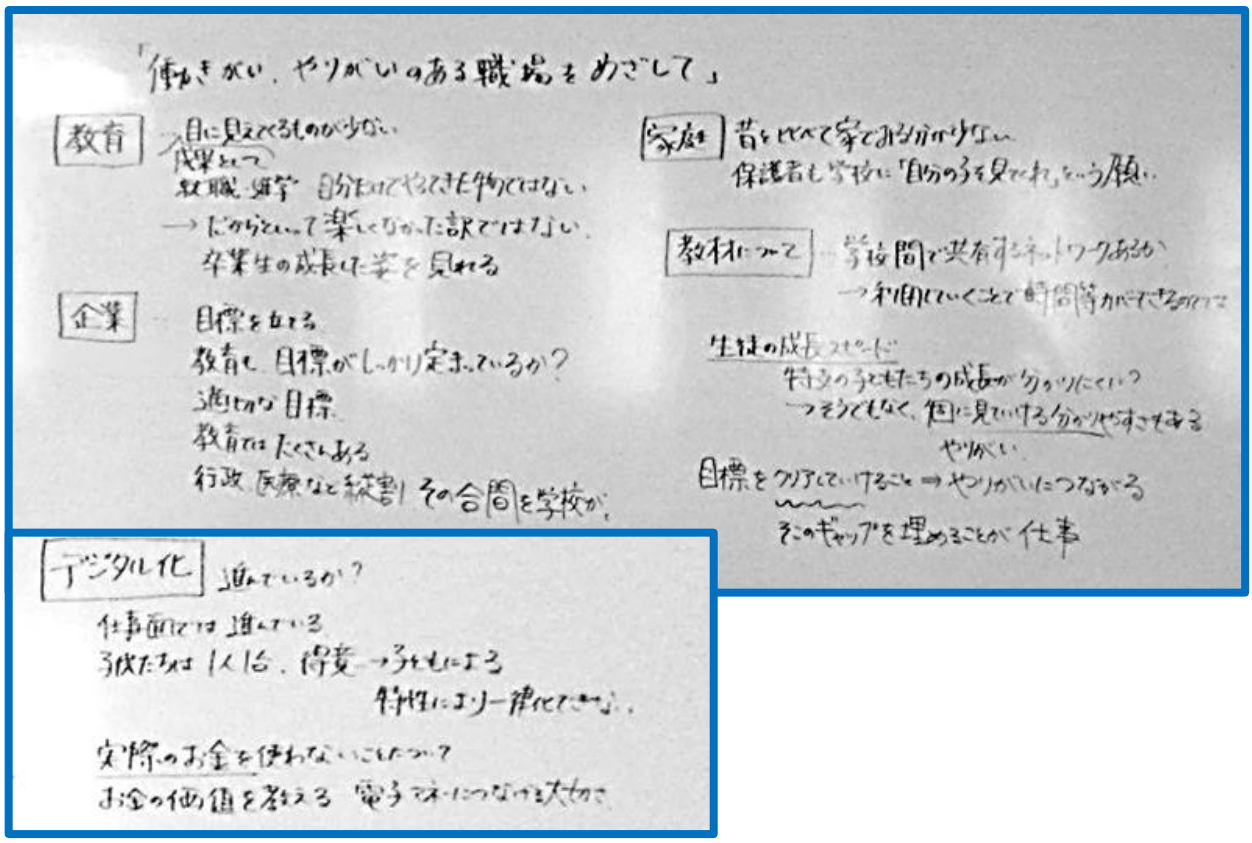
２．校内参観

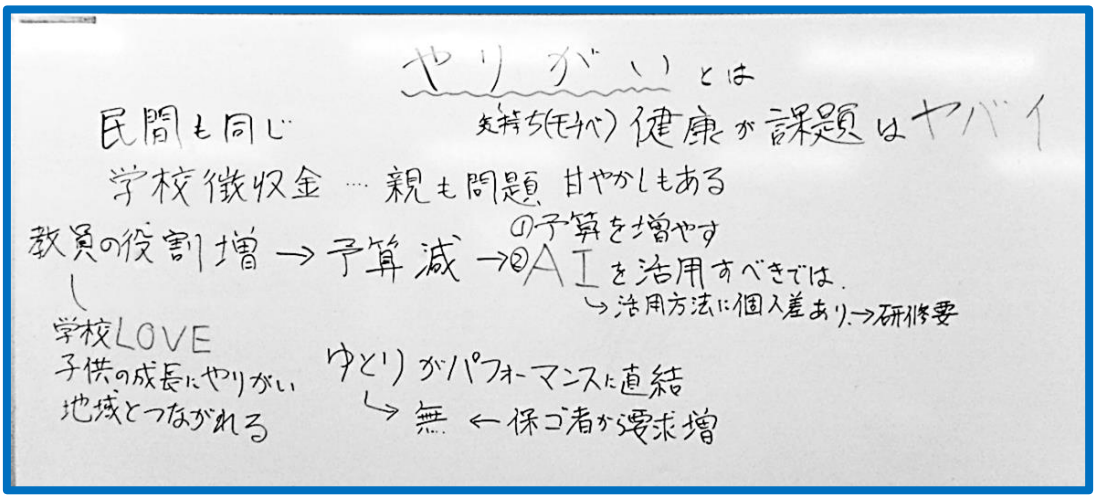
３．グループワーク「チーム伊豆の国特支～働きがい、やりがいのある職場を目指して～」

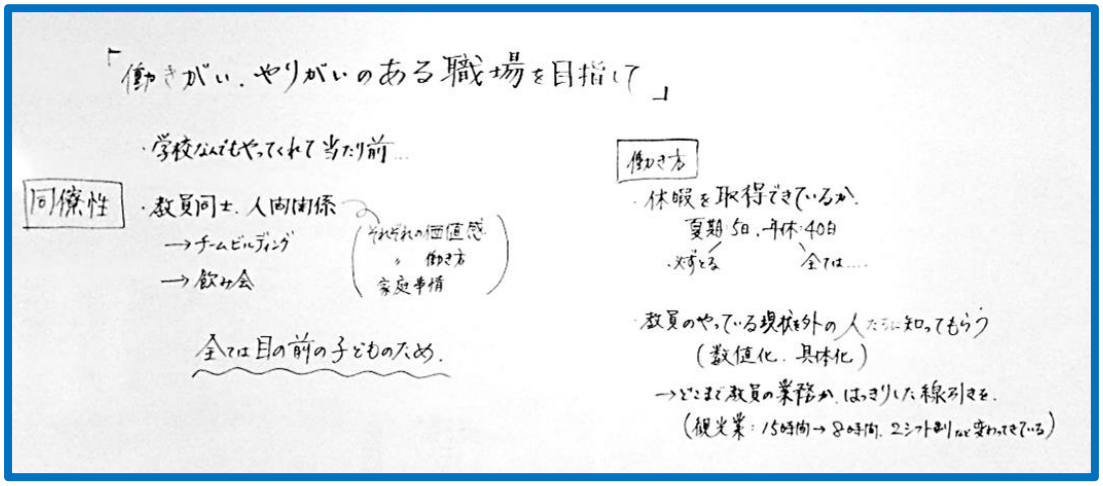
1. **学校の現状と課題認識**
    - **教員の業務負担**：
        - 本来、学校外が担うべき業務（登下校対応、生徒の補導対応、学校徴収金、地域ボランティアとの連絡調整）や、教師が必ずしも担う必要のない業務（調査照会への回答、校内清掃、部活動指導）を教員が担っている現状の提示。
        - 小学部では、個々の実態に合わせた教材研究に多くの時間を要する実情がある。
        - スクールバス内での児童生徒間のトラブル対応や、家庭環境に課題を抱える保護者への支援・指導が教員の負担となっている。
        - 中学部では、地域との交流活動における事前調整に多くの時間を費やしており、教員の負担軽減と教育効果のバランスが課題となっている。
        - 高等部では、卒業後の進路決定や福祉課との連携、また家庭のライフラインに関わる問題など、より踏み込んだ家庭支援に時間を要している。

- **働きがいと人間関係**：教員間の人間関係やチームワークの維持も課題として挙げられた。

グループワーク記録







2. グループワークの共有
    - **業務の明確化と外部との連携**：教員の業務範囲を明確化し、学校が担うべきでない業務は外部（行政、地域ボランティアなど）と連携して分担することの提案が出された。
    - **AI・デジタル技術の活用**：業務の省力化・効率化のためにAIやデジタル技術の導入が提案されたが、同時に、それらを活用できる人材育成への予算投入の必要性も指摘された。
    - **予算増額の必要性**：教員の多忙化や健康課題を解決し、教育の質の向上を図るためには、教育予算の増額が不可欠であるとの意見が出た。
    - **働きがい・やりがいの醸成**：
        - 「目の前の子どものため」という共通理解のもと、同僚性を育むことが、やりがいや問題解決につながるとの意見があった。
        - 教員自身が自身の働き方を明確にし、その活動を数値化するなどして外部に情報発信することで、応援や協力が得られやすくなるとの提言があった。
        - 「学校を愛する」「子どもの成長にやりがいを感じる」「地域と繋がれる」といった教員のモチベーションの源泉を大切にしつつ、パフォーマンスを維持するためには「ゆとり」が必要であるとの意見が共有された。
        - 企業における「KGI（重要目標達成指標）」「KPI（重要業績評価指標）」のような数値目標の設定や、「360度フィードバック」のような人事評価システムを参考に、教育現場でのやりがいを可視化・向上させる取り組みの可能性も示唆された。

今後の展望

- 学校運営における様々な課題は、学校単独では解決困難であり、行政や企業など外部からの視点や協力が不可欠であるという認識が共有された。

- 知的障害のある生徒の就労支援において、企業側が求める人材像と学校が育成する生徒像の間に乖離があることが指摘され、企業側から情報提供や連携強化への期待が寄せられた。
- 行政の縦割り構造や機能不全が、保護者への適切な情報提供や支援を妨げていると現状の課題についても共有した。

本協議会を通じて、学校が抱える課題の複雑さと多岐にわたる性質が明確になった。学校側は、教員の業務負担軽減、児童生徒の適切な成長支援、そして働きがいのある職場環境の維持に向けて、外部機関との連携を一層強化していく意向を示した。

次回の協議会は、10 月 14 日 9 時半から 11 時まで開催される予定